

三潞町におけるハトムギへの取組について

JA みづま営農部農産課 富松 宏和

1. 三潞町における農業の特徴

福岡県南部の筑後平野のほぼ中央に位置する久留米市三潞町は、農業基盤整備にいち早く着手し現在では、ほ場整備事業・灌漑排水事業等も完了し、農地の集団化や農業用水の合理化が図られている。

三潞町は、耕地面積（約954ha）における水田面積（約926ha）の割合が95.4%と非常に高く、米をはじめ麦・大豆・飼料作物及び雑穀類等の作付けが行われている。

さらに、いちじく・たまねぎ（国指定産地）・レタス・な花等の野菜・園芸作物も水田の持つ高い生産力を活かし産地化が図られている。そのなかでも福岡県産ブランド『博多あまおう』として有名ないちごは、全国を代表する産地が形成され地域農業の中で重要な位置を占めている。

2. 三潞町におけるハトムギ栽培への取り組み

ハトムギは、イネ科ジュズダマ属の一年生作物で乾燥した子実は漢方では「ヨクイニン」と呼ばれ滋養強壮に効果がある健康食材として注目されており、精白粒の一般成分は、他の穀類に比べてタンパク質・脂質を多く含有し食用・化粧品等に広く利用されている。

三潞町では昭和55年から転作作物としてハトムギの栽培が始まり三潞町における重点作物のひとつとして生産に取り組んでいる。三潞町は全国有数、福岡県では唯一のハトムギ生産地であり三潞町で栽培されたハトムギは国内産種子としても流通している。又、平成20年9月にはJA みづまハトムギ生産部会（中島一夫部会長、部会員25名）が発足。中島部会長は、「部会員一丸となって安全・安心な三潞産ハトムギをお届けしたい。」と話す。

3. 三潞産ハトムギを使用したペットボトル

『くるめ ほとめき茶』の開発・販売

JA みづま（福岡県久留米市三潞町田川211番地代表理事組合長石井公司）は、平成20年10月地産地消の一環として三潞産ハトムギを原料としたペットボトル『くるめ ほとめき茶』（商標登録済）を発売した。

同JAは、販売に向けた発表会を久留米市役所で開き、「さらりとして香ばしいお茶に仕上がった。三潞産ハトムギで出来た製品を消費者に口にしてもらうきっかけになる。特にハトムギはビタミンBを多く含み美肌効果があると言われていいる。女性に是非試してもらいたい。」と石井組合長は話す。

同JAはこれまでもハトムギ入りみそ（1kg 690円）、ティーバッグ入りのハトムギ茶（1箱580円）などを販売してきた。今回は持ち歩きやすいペットボトルタイプを開発し、商品名には筑後地方の方言で「おもてなし」を意味する「ほとめき」を用いている。「くるめ ほとめき茶」は1本120円（350ml）で、まずは県内を中心に販売を始め、平成21年度には12万本の販売を見込む予定。主な販売店舗は下記のとおり。

▽道の駅くるめ
福岡県久留米市善導寺町木塚
221-33
TEL：0942-47-4111
▽musubime
福岡県福岡市中央区天神
4-3-30
TEL：092-714-3910
▽久留米市役所売店
福岡県久留米市城南町15-3
TEL：0942-30-9000
▽JA みづま
福岡県久留米市三潞町田川
211
TEL：0942-64-2211（代表）



三潞産ハトムギを使用したペットボトル「くるめ ほとめき茶」。ハトムギの実をイメージしたデザインは、同JA女性部で考案した。